



稚内市概要

Port of Wakkai

日本最北端に位置する稚内市

稚内市は、宗谷海峡をはさんで東はオホーツク海、西は日本海に面し、宗谷岬からわずか43kmの地にサハリン（旧樺太）の島影を望む国境の街。

「水産」・「酪農」・「観光」を基幹産業とする宗谷地方の行政、経済の中心地です。稚内と交流の盛んなお隣の国、ロシア連邦サハリン州をはじめとする北方圏諸国への玄関口としても知られています。



世界に開かれた北の玄関口

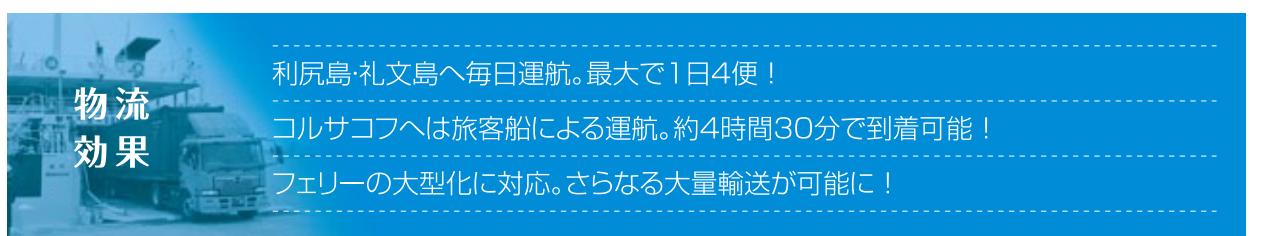
稚内は、利尻島・礼文島の生活を支えるほか、ロシア連邦サハリン州に一番近い重要港湾稚内港を中心に、日本とロシアを結ぶ貨物船の往来による貿易の拠点として重要な役割を担っています。

サハリン、離島をつなぐ海上輸送

離島へのフェリー輸送が盛んに行われており、稚内港の全輸送量の約4分の3を占め、ロシア連邦サハリン州との旅客船による定期運航が行われ、交流の活性化に寄与しています。

全国各地へアクセス

稚内は、主要国道、空港、鉄道が接続し、物流・人流の両面で全国各地から多様なアクセスが確保されており、道北の交通結節点となっています。





世界と北海道北部をつなぐ交流拠点

稚内港から広がる可能性

クルーズ客船が続々入港

Port of Wakkanai

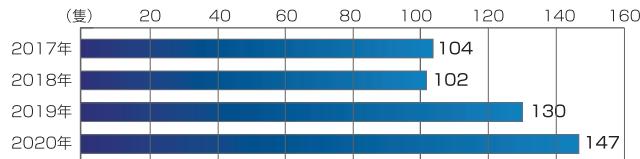


平成30年の11万トン級クルーズ客船に対応した末広埠頭東岸壁の供用開始に伴い、稚内港におけるクルーズ客船の寄港数は、外航客船を中心に年々増加傾向を見せ、近隣の利尻・礼文を含めると、北海道北部の国際クルーズ拠点となっています。また、クルーズ船社や地域関係者からは、ロケーションが魅力である北防波堤ドーム前の接岸を望まれており、港湾整備に期待を寄せています。

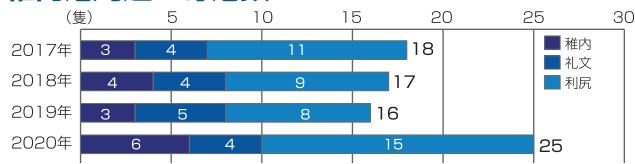
なお、稚内港（末広埠頭）は、稚内駅やフェリーターミナルへ自動車で約5分、東京との直行便のある稚内空港とは自動車で約20分の位置にあり、他の交通機関とアクセスしやすい場所となっています。

北海道内クルーズ客船寄港数

道内港湾寄港数



稚内港周辺の寄港数



※2020年については、当初の寄港予定数

出典：北海道クルーズ振興協議会 調べ

クルーズ入港時

末広埠頭の主な設備 (クルーズ船寄港観光時)

- 公共上屋
 - ・C1Qの船外での利用手続き
 - ・FREE-WiFi整備済み
(250名利用可)
 - ・みなとcafeの利用



おもてなしについて

- 地元高校生による吹奏楽演奏及び
南中ソーラン
- 海峡太鼓演奏による見送り
- ゆるキャラによる送迎
- みなとcafe (地場産品等の物販)
- 観光案内所の開設
- シャトルバスの運行 (末広埠頭 ⇄ 市内)



主な観光スポット(岸壁から40分圏内)



宗谷岬



稚内公園



ノシャップ岬



稚内港北防波堤ドーム



白い道



宗谷丘陵

稚内港の寄港実績(過去5年)

年	船名	乗船客数	年次合計
2015	寄港実績なし	0人	0人
2016	にっぽん丸	420人	
	にっぽん丸	395人	
	にっぽん丸	356人	
2017	ブレーメン	132人	390人
	ブレーメン	120人	
	ブレーメン	138人	
2018	カレドニアーンスカイ	81人	1,554人
	ぱしふいっくびいなす	283人	
	飛鳥II	794人	
	にっぽん丸	396人	
2019	カレドニアーンスカイ	100人	1,286人
	飛鳥II	790人	
	にっぽん丸	396人	

稚内港(末広埠頭)との距離

	施設名	移動時間 (車)
觀光地	稚内港北防波堤ドーム	約5分
	稚内公園	約10分
	ノシャップ岬	約10分
	宗谷岬	約40分
	宗谷丘陵	約40分
交通機関	稚内南駅	約5分
	稚内駅	約5分
	稚内フェリーターミナル	約5分
	稚内駅前バスターミナル	約5分
	稚内空港	約20分
最寄施設	コンビニエンスストア	約5分
	ドラッグストア	約5分
	総合病院	約10分
	複合施設	約5分
	温泉	約15分

稚内港から市街地や観光地へのアクセスは40分圏内にあり、利便性が高い場所に位置しています。

クルーズ客船の寄港誘致活動やクルーズ寄港時のおもてなしは、官民一体で実施しています。